

男女共同参画活動のさらなる推進に向けて ～加盟学会の好事例共有～

日本生態学会
日本応用数理学会

加盟学協会の取組の好事例や課題に関する アンケート結果

目的：各学会での取組の充実・発展のため、各学会での
取組の好事例や課題をアンケートにより抽出する

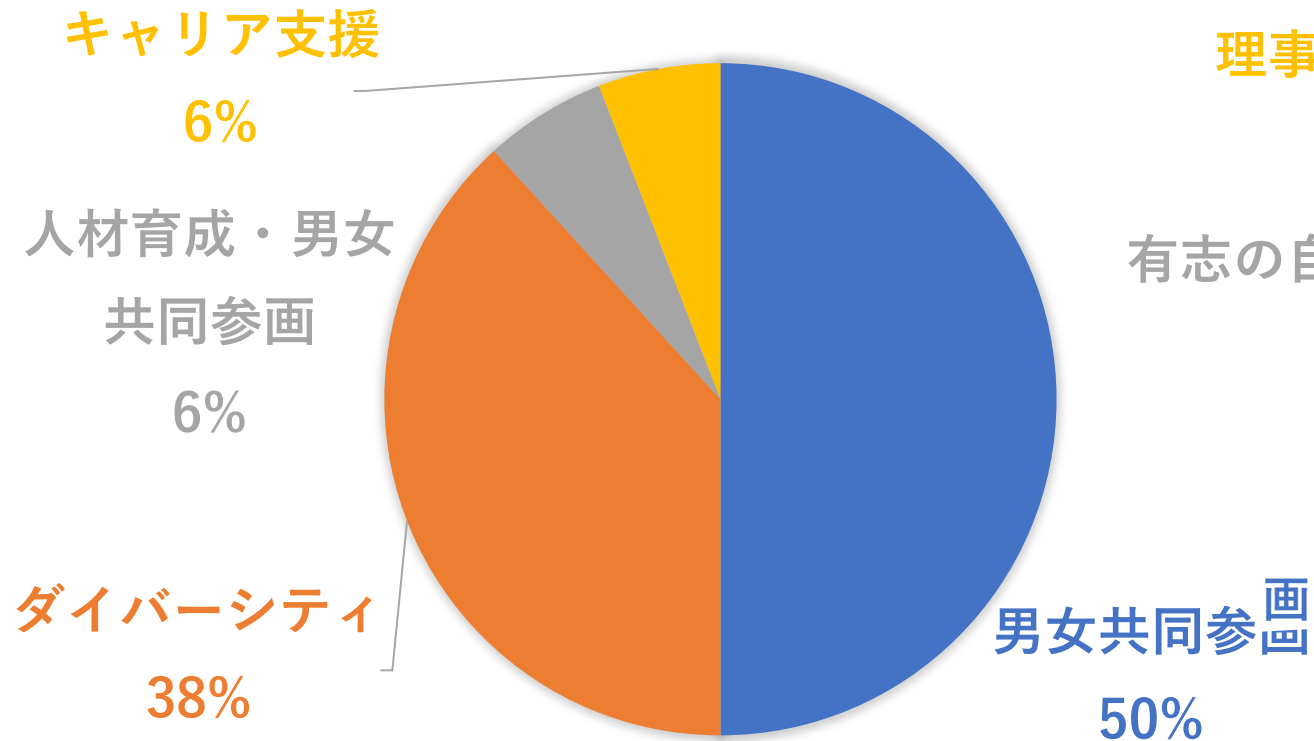
対象：正規加盟学会・オブザーバー学会

期間：2023年8月10日から9月2日

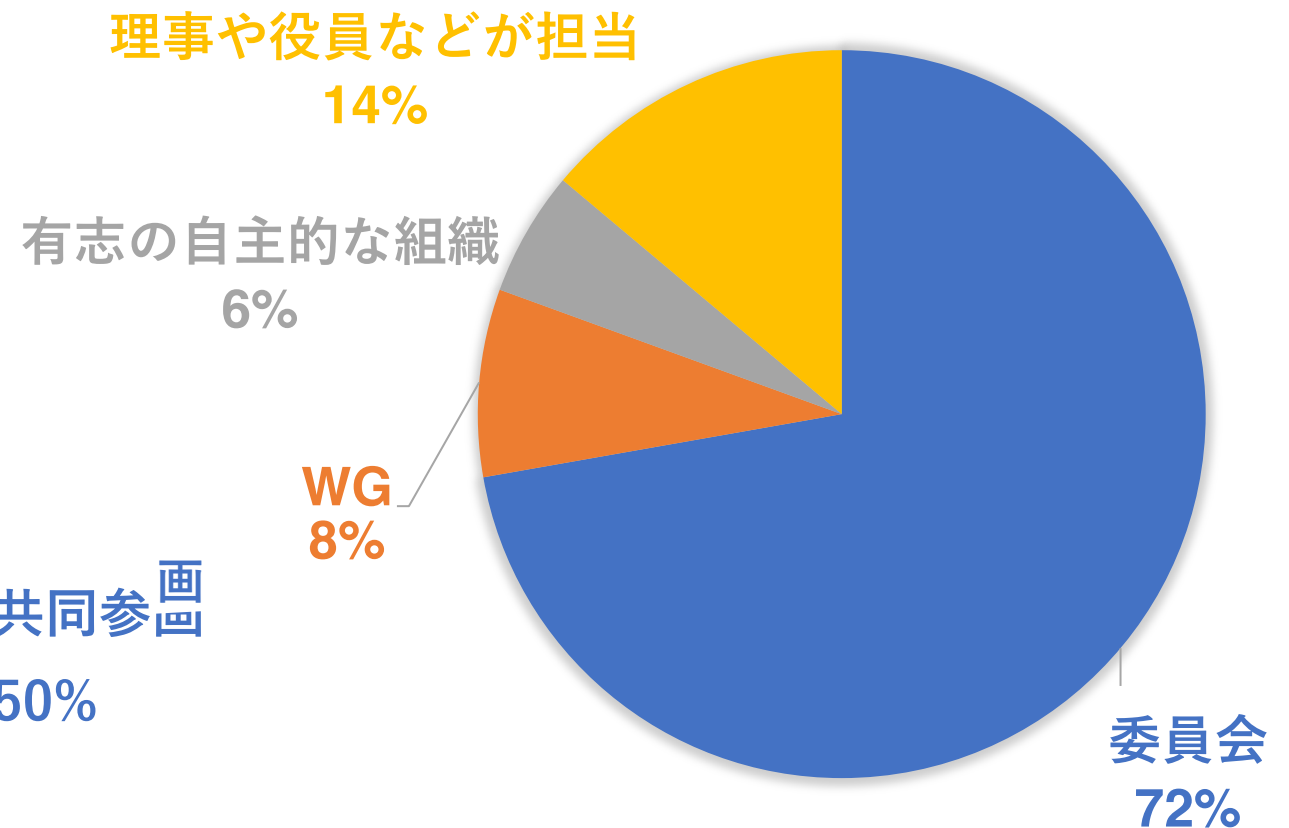
方法：Googleフォームによる調査

回答数：38学会

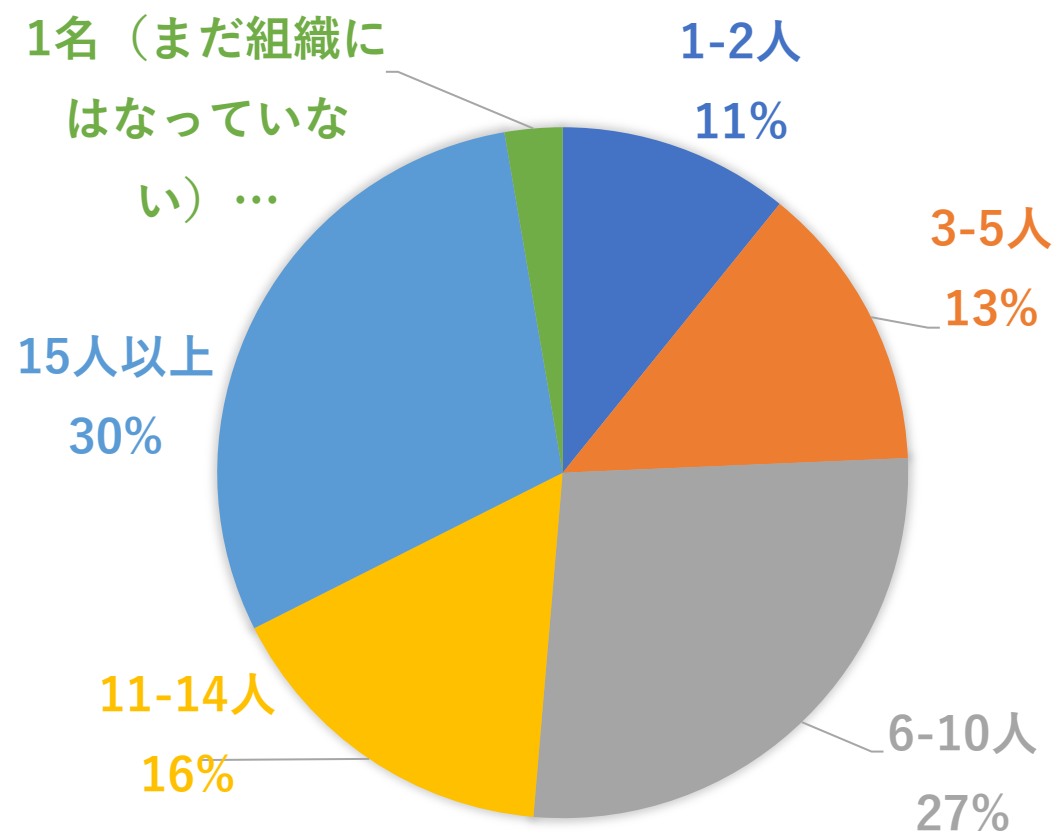
1-1) 学会での組織の名称



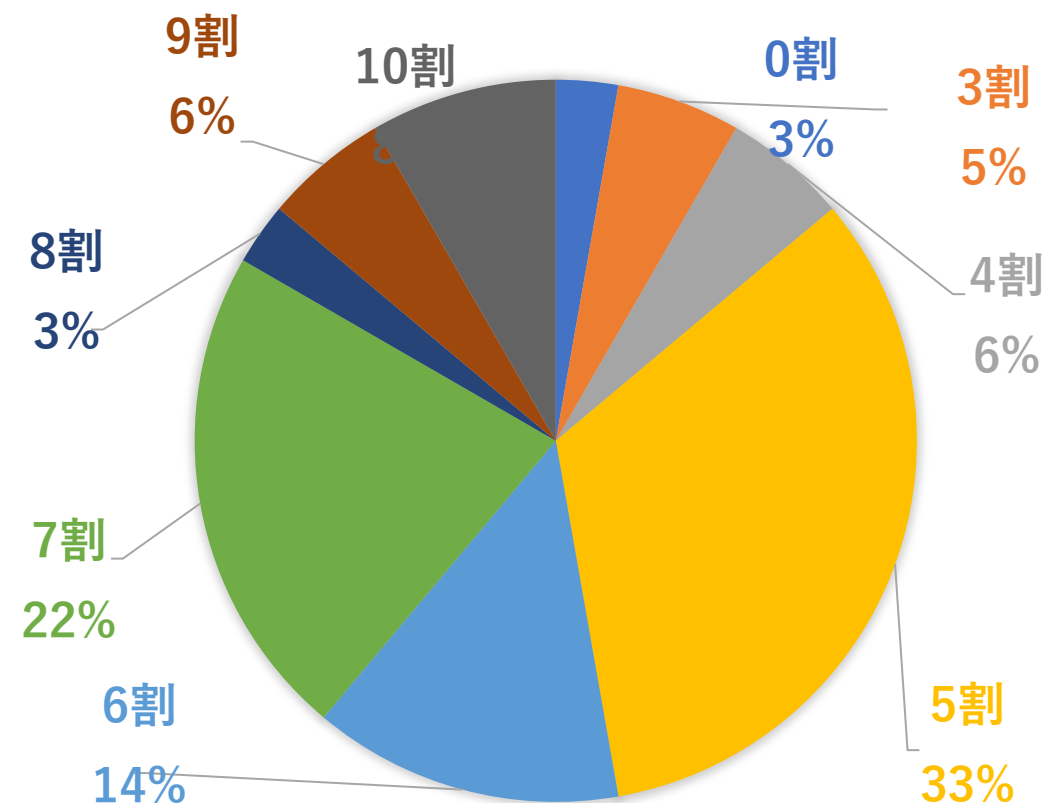
1-2) 組織の位置付け



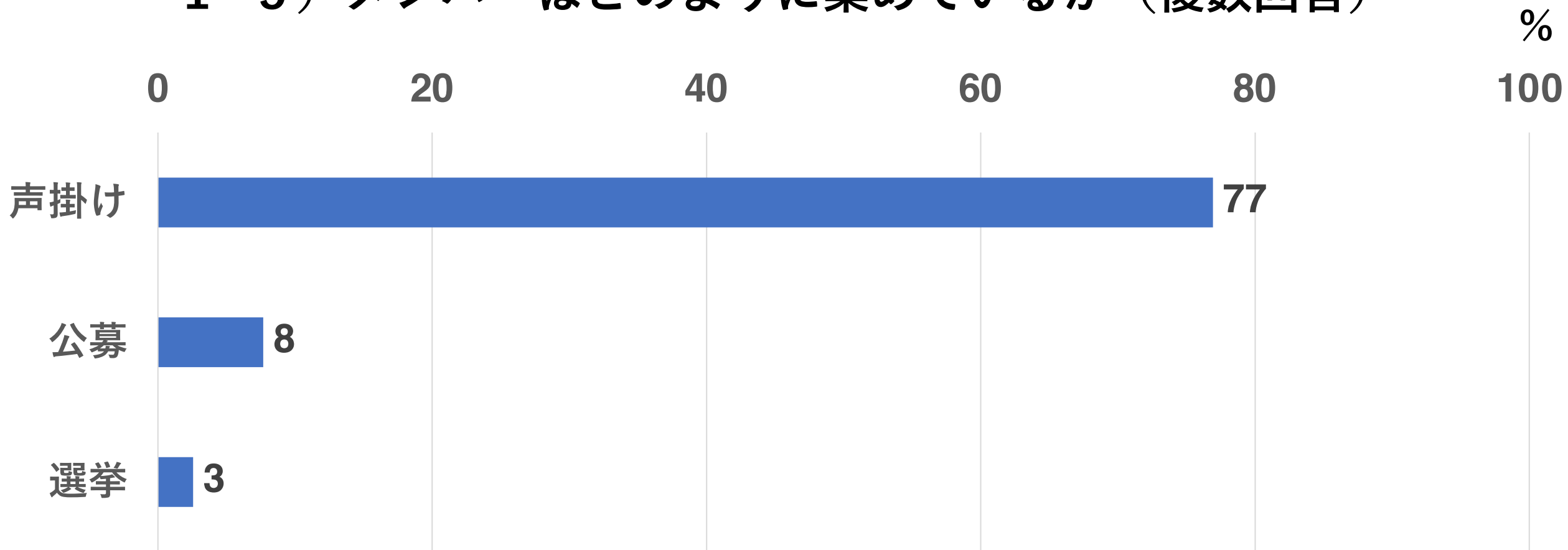
1 - 3) 委員の人数



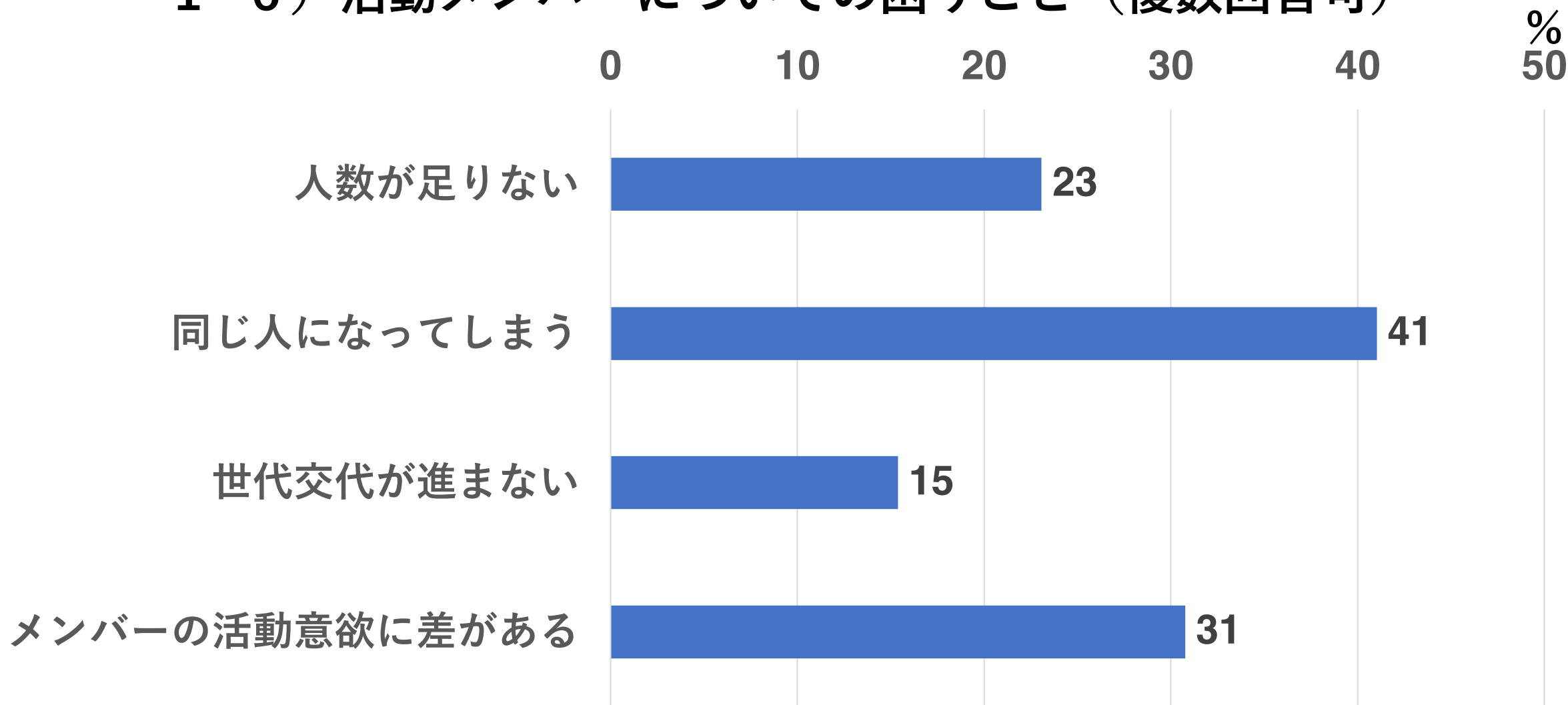
1 - 4) 委員の女性割合



1-5) メンバーはどのように集めているか (複数回答)



1-6) 活動メンバーについての困りごと（複数回答可）



1－6) 活動組織の位置付けやメンバーの確保についての困りごと (自由記述)

- 活動に関して
 - ・ 女性会員が少ないため、活発にならない
 - ・ 活動の継承
 - ・ 活動が多く、負担増になる

- メンバーに関して
 - ・ 負担増（女性，若手，子育て中） 声掛けの難しさ，研究時間の低下
 - ・ 同じ人がやり続けることになる
 - ・ 興味があっても活動できる人が少ない

- 男女共同参画に対する意識
 - ・ 学会全体で意識が低い
 - ・ 個人差・世代差があり，だれが適切かの判断が難しい
 - ・ 委員会の存在が知られていない
 - ・ シニア層の意識改革の必要性

1－6）活動組織の位置付けやメンバーの確保についての困りごとがありましたら、お書きください。

13名のうち、委員会内で男女共同参画の担当は2名のみ

ダイバーシティ推進にたいする個人差・世代差があるため、どのようなメンバー構成・人数にするのが適切なのかの判断が難しい。

ベテラン多数が一斉に退任し、新メンバーと入れ替わった。世代交代できたが、活動継承の面で不安あり。人数的にも減ったので不足を感じている。

委員会の存在が学会会員にあまり知られておらず、意欲を持って参加していただける会員が限られてしまう。

学会が小規模であることもあり、委員の多様性を確保することが難しい状況です。特に若い女性会員が少なく、特定の人に負担が偏らないようにするとメンバーを確保するのが厳しくなります。

学会の評議員レベルで女性が少なく人選に苦労する

学会委員会活動は基本は有志なので、必然的にメンバーに偏りが起こりがちなこと。

学会全体に男女共同参画推進マインドが浸透していない点

活動が多く、女性研究者は少ないため委員のご負担が大きい

興味がある方は多いが実際に動ける方が少ない

困りごとは特になく、学会の中では、大事にしてもらっており、希望や意見を尊重してもらっているように感じている。

最近、様々な委員会（学会、政府系委員会、JSPS、JST、文科省、学内委員会）で女性比率向上がうたわれるようになり、数少ない女性研究者への依頼が殺到していて、逆に研究時間の確保が難しくなっている。新しく女性委員を加えたいが、このような状況下で、委員就任を依頼すると、逆に当該女性研究者の研究力を下げてしまうのではないかと危惧している。

女性会員の比率が少ないため、活動自体が活発にはならない。

常勤の職員にお願いするようにしていますが、子育てなどに忙しい若手（当事者）にお願いすることが多い。困難な現状を次の世代には引き継がせないという思いで活動しているが、活動内容やメンバーによってはさらに忙しい状況にしている。また、メンバーが若い世代になっており、シニア層などへの意識改革をどうするかが難しい。

人材育成も兼ねており、若手研究者が多忙で協力者が少ない

男女共同参画は、その人のバックグラウンドや考え方が非常に重要なため、メンバーが知っている人から選ぶ傾向にある。そのため、分野や勤務地、世代が偏ることが多い。

男女共同参画担当はいつも子育てしている女性が多い

同じメンバーになりがちなので、新メンバーを入れるようにしている

本務、育児等に多忙な人が多く、声をかけることで負担を増やしてしまうのではないかと懸念する。

1－7) 活動組織の位置付けやメンバーの確保について、うまくいった事例（工夫）

- 地道な活動で認知度を高めた
アンケート，連絡会の活動紹介，年会でのシンポジウム
年会での男女共同セッションの設定
- 理事会等への働きかけ
委員会の報告
学会時での女性登壇者や座長を登用する
委員が理事や執行部のメンバーとして参画
- 退任した委員の活用
「協力員」として内規で定めた
前会長を委員に

1－7）活動組織の位置付けやメンバーの確保について、うまくいった事例（工夫）などがありましたらお書きください。

委員は現在課題を抱えている当事者が多く、忌憚のない意見を出しやすい。また、委員の意見を活動に反映しやすい空気がある。

委員会担当者が理事や執行部のメンバーとして参画することで、委員会の活動と意見が運営事務局に伝えやすくなっている。

学会時に女性演者や座長を登用するように理事会で言い続けることで、女性演者と座長が増えて来たこと

企業所属の委員は少なくなりがちなので、早くからリクルートを行う。

現役および退任直後の役員・理事で構成している。

交替する際に後任を推薦してもらう

今年度学会大会においてパネルディスカッションを開催予定。聴衆の中から問題意識を持ってもらいたい。

若手研究者が自ら積極的にイベントを開催してくれている

前任者から後任者の推薦、前会長が委員として加わる

大会中の託児サービスの設置などの必要性を感じ、学会幹事会内の同世代・子育て中の研究者で始めた。

担当を決め、講演大会での男女共同セッションの設定など新たな取り組みを実施している

男女共同参画委員会が2006年度から学会内での正式委員会として認められ、小規模な学会としてささやかな活動ではあったが、学会内でアンケートをとったり、連絡会の活動を紹介したり、年大会時にシンポジウムを企画したりして、学会内で活動の業績を上げていった。このような男女共同参画の活動を通じて、女性委員が学会内で認められ、その後、学会内委員会の委員長となったり、年大会の大会長となったりしたことはよかった。

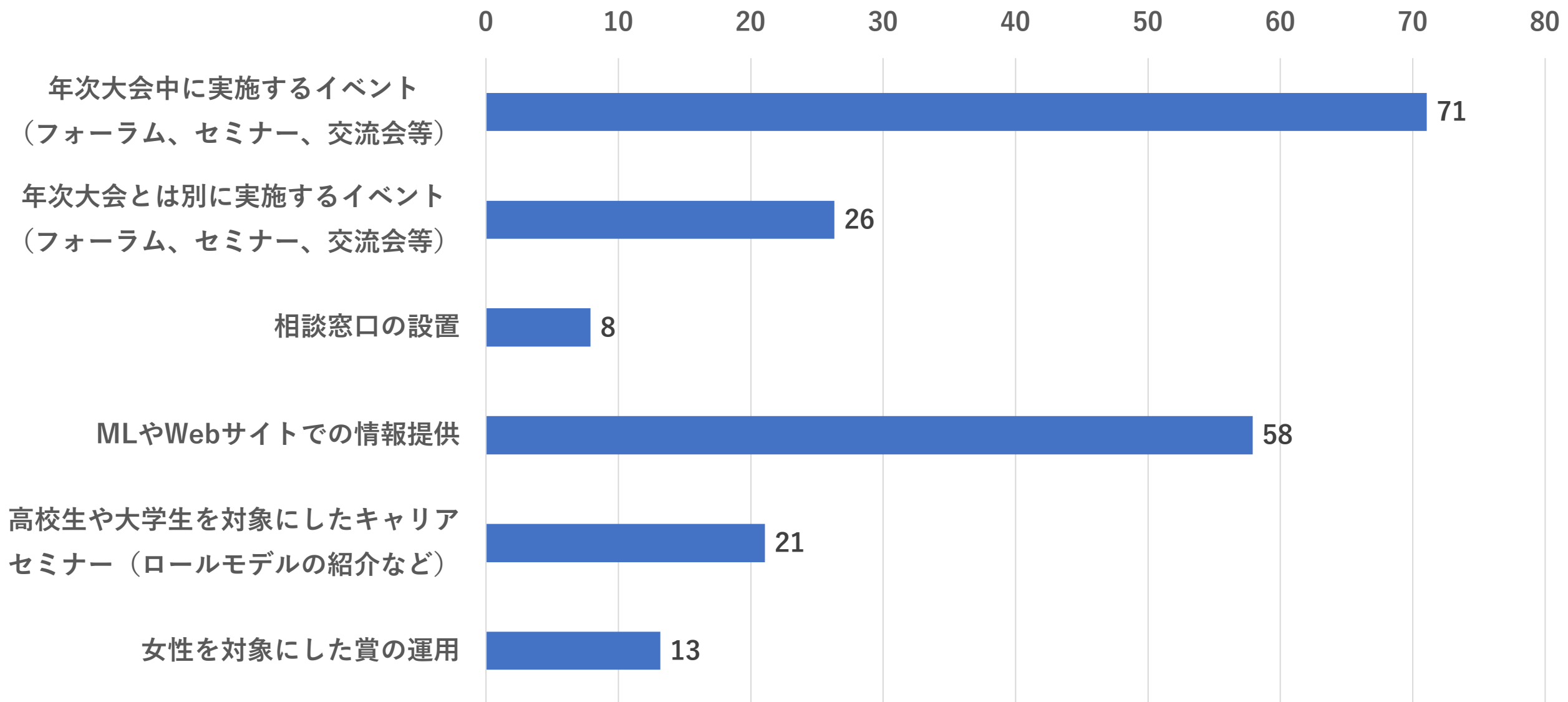
年2回ほどの定期委員会開催をオンラインでやっているため、育児休業中の会員、海外で研究している会員も企画、議論に参加できている。

理事会にてダイバーシティ推進への意識が高まり、委員を増やすことができた。

「委員」と「委員補佐（行事対応が主）」で運営してきたが、退任した委員を「協力員」とする内規を作った。相談ごとや、イベント等で声を掛けやすくなるのでよいと思う。

2－1）学会での活動内容（複数回答可）

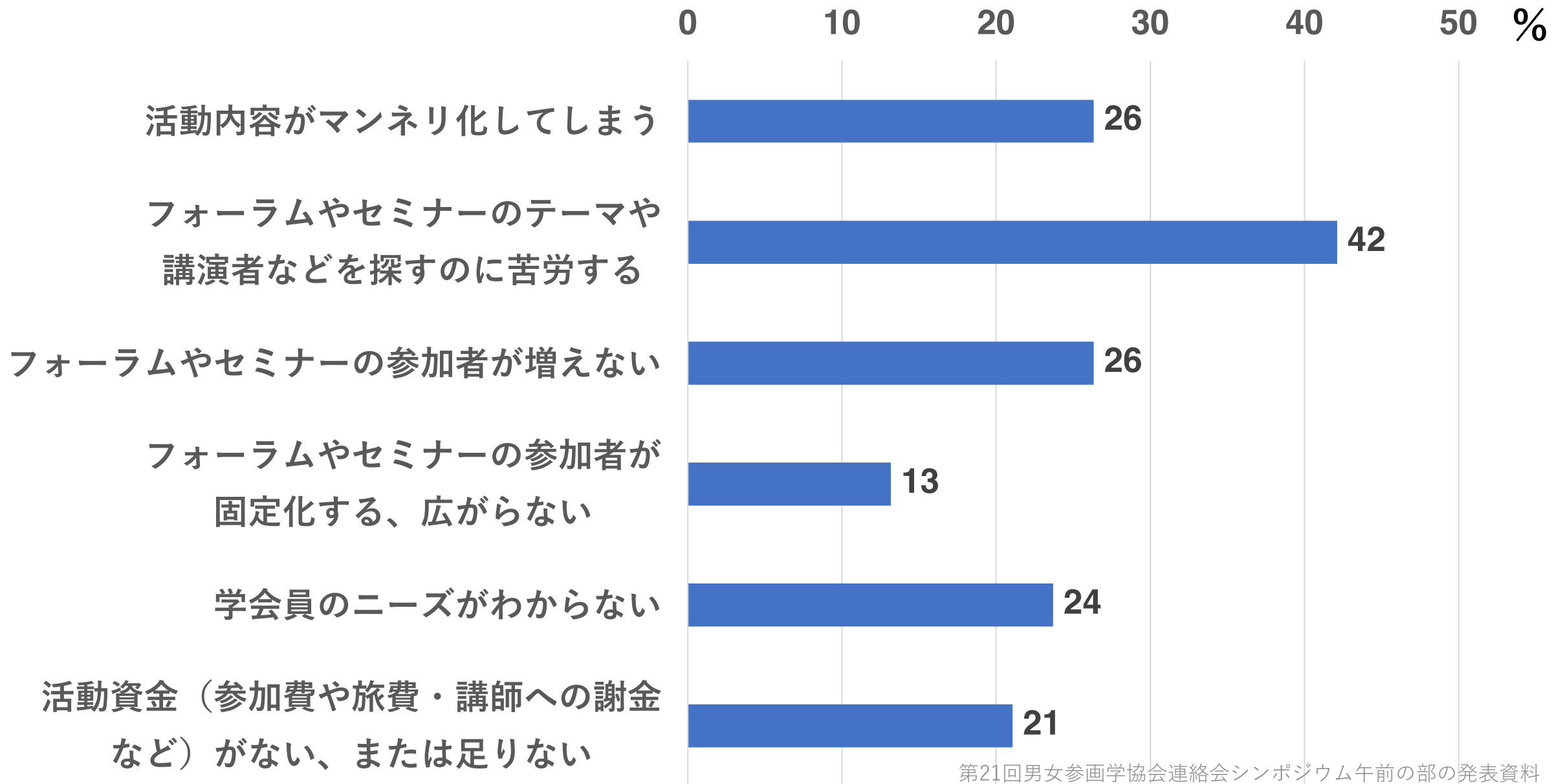
%



2－1) 学会での活動内容（その他）

- 国際会議・シンポジウムへの参加
- 連絡会の報告
- 団体の雑誌への投稿
- アンケートの実施
- 託児所の設置，利用補助

2-2) 活動の困りごと（複数回答可）



2-3) 活動について、うまくいった事例（工夫）など

➤ 学会運営方法

- ・ 代議員の選挙の際に「多様な代議員の選出促進のお願い」
- ・ 若手委員会との共同で活動
- ・ ニュースレターによる活動報告（活動の周知とアーカイブ）
- ・ 各種アンケートの解析結果について和文誌での報告

➤ 学会やイベント運営

- ・ オンライン会議
- ・ 他学会との共催
- ・ 若手研究者が多く参加または運営しているグループに情報発信

➤ 年会時の活動

- ・ ティータイム研究者交流会（子連れ交流会）
- ・ ランチョンセミナー

弁当の無料配布，男性も参加しやすいテーマ

2-3) 活動について、うまくいった事例（工夫）などがありましたらお書きください。（例：フォーラム・交流会の参加者を増やす工夫、学会員のニーズを把握するための工夫、など）

2005年以降、代議員の選挙の際に「多様な代議員の選出促進のお願い」を出しており、2013年に女性比率が約50%となり、その後も約30%を維持している。

オンライン開催の時は参加者が非常に増えた。

シンポジウム開催の際に若手研究者が多く参加または運営しているグループ等にお知らせを配信した

ニュースレターによる活動報告（活動の周知とアーカイブ）

フォーラムに男性目線のテストをわざと加え、男女共同参画はあくまで男と女の両方が関わることを全面に出している。直近3年間のフォーラムのタイトルは以下の通り。「みんなで支えよう、女性の社会進出と男性の家庭進出」「男も女も無意識のバイアスだらけ。あなたの何気ない認識、それでいいですか?」「だって家族も大事だもん。誰でも気軽に取りたいね、産休、育休、介護休。～PIが産休・育休すると学生、テク、ポスドクはどうなるの? ポスドクは産休や育休をどのように取るの?～」

フォーラムはオンラインとしてから参加者が増えた（全国展開）。参加者を増やすため、各委員の所属団体や連絡会を通じて周知等を行っている。技術士CPD行事の扱いとしている点も効果あると思う。フォーラムや技術サロン等は終了後に参加者アンケートを取り、時間帯、内容等のニーズを次に反映している。

ワークショップによる会員自身の課題の抽出と共有。

運営委員会が積極的に本委員会のイベントを後押ししてくれる。資金提供もある。

各種アンケートの解析結果について和文誌での報告（数値化による課題の明示）

学会の年会中に開催するフォーラムはランチョン形式でお弁当を無料配布している。（学会が費用負担）

学会会期中に開催するセミナーの場所を人通りの多い場所にし、事前申し込み以外に当日呼び込みを行うことで参加者が増えた。また、参加しやすいよう昼休みに開催し、昼食や軽食を提供している。

講演大会の男女共同セッションでは、大会参加者だけでなく、だれでも自由に参加できるようにしたことで、非常に参加者が多くなっている。今回パネルディスカッションを開催するが、その効果を検証していきたい。

支部活動に積極的に参加し、啓蒙活動（お話）をする機会を作るようにしている。

若手の会と連携して、年次大会時に「ティータイム研究者交流会（子連れ交流会）」を開催し、問題点等の共有ができた。

若手委員会との共同で活動を行っており、切っても切り離せない女性・マイノリティー・若手の抱える問題に包括的に対応している。

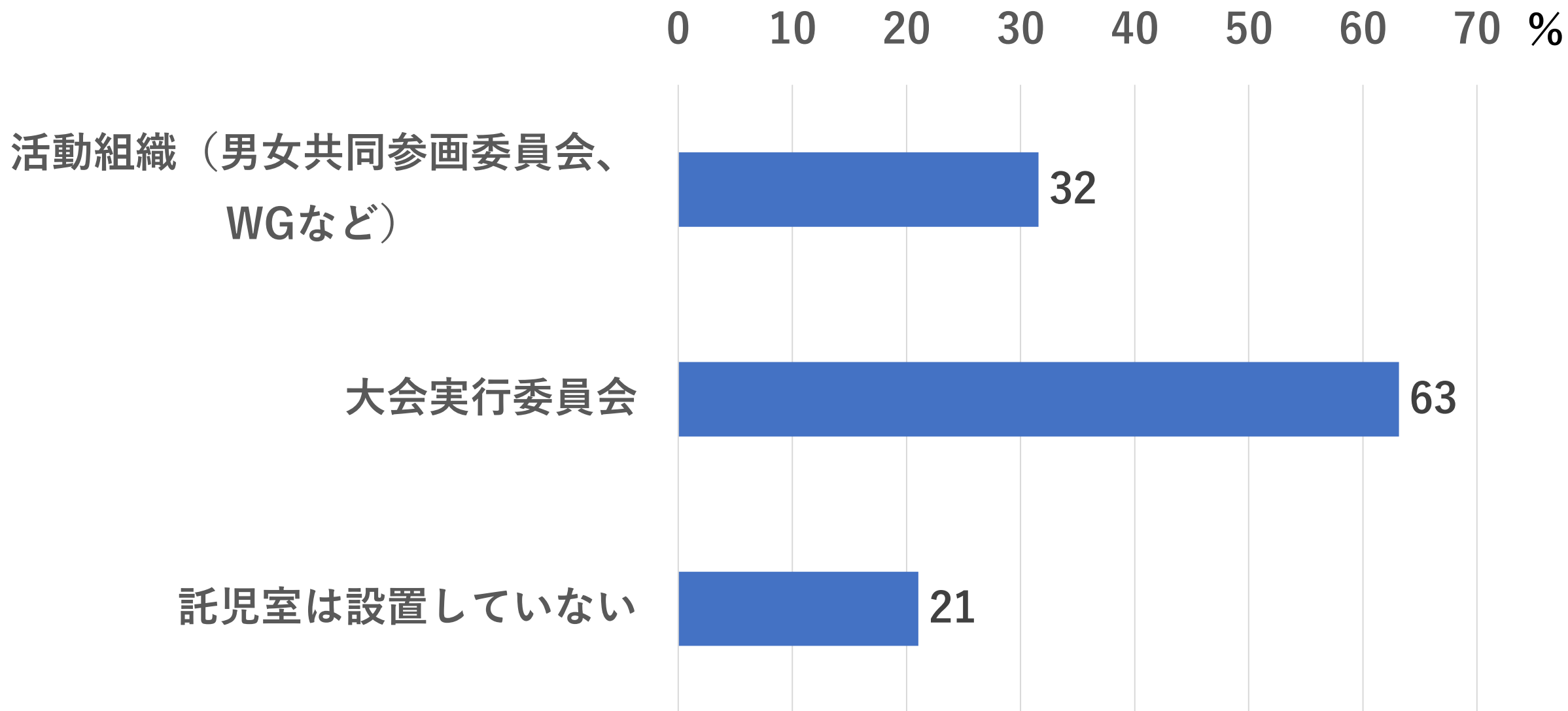
他学会との共催でイベントを開催し、アンケートを実施することで、同分野の会員のニーズや課題を把握することにつながった。

独自に育児休業中の科研費の執行に関わる問題事例を集め、学会ホームページで公開している。

年会・大会において、ダイバーシティ推進委員会独自のポスターセッションを開催し、働き方などを紹介してもらっている。これまで学会の年会・大会に参加しなかったような職種の方に発表頂くように積極的に働きかけ、それなりに成果を上げている。

年会時に女性会員の集い、若手/学生の集いを定期的に行っており、会員も理解をしている。

3－1）託児室の設置担当（複数回答可）



3-2) 託児室の運用の困りごと（複数回答可）

%

30

0

5

10

15

20

25

託児業者を探すのに苦労する

24

利用人数の把握が難しい

26

利用者が増えない

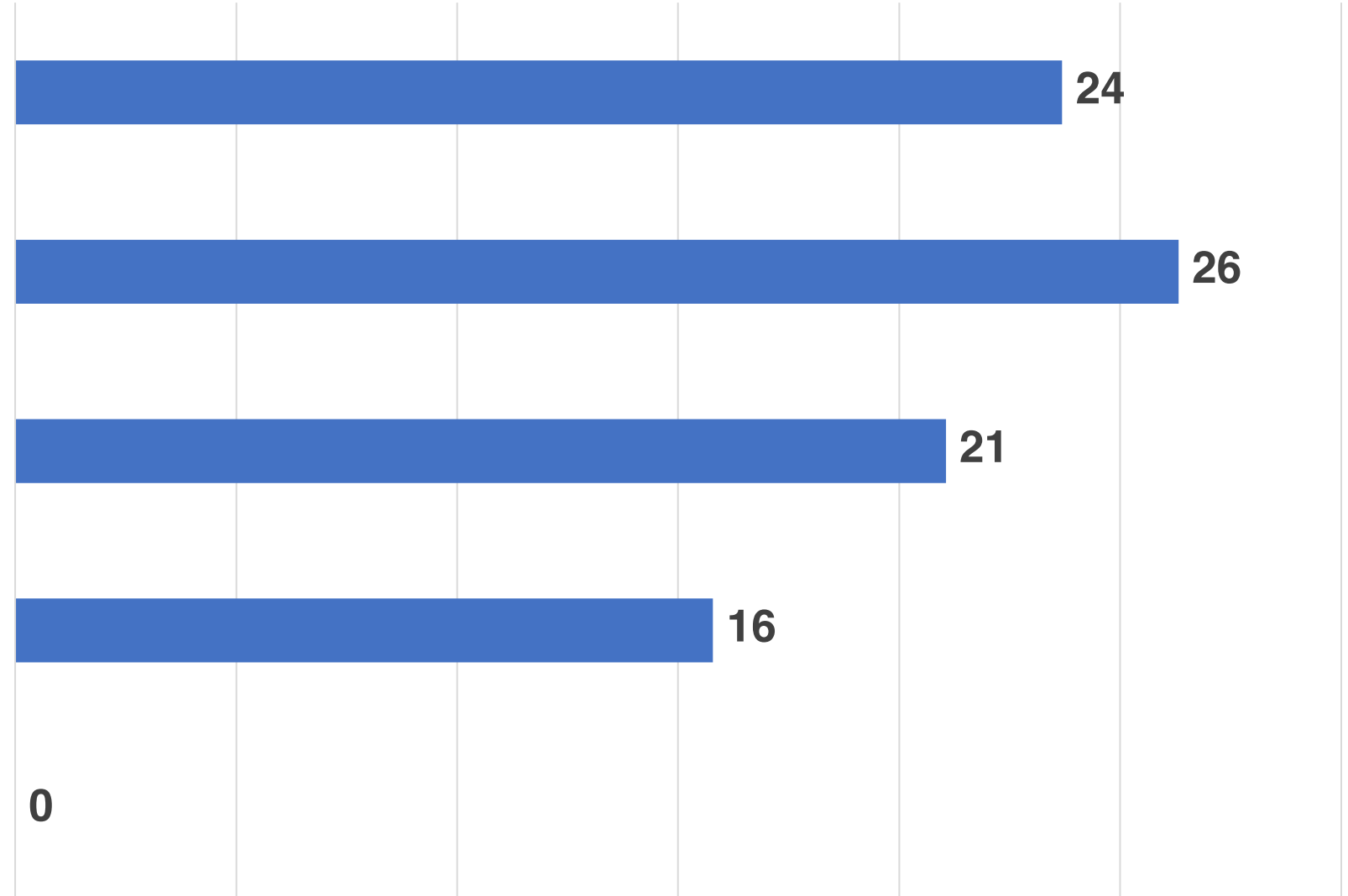
21

託児費用の補助金が足りない

16

託児室の設置に対して執行部や会員の
理解がえられにくい

0



3－3）託児室以外に子ども連れの研究者の大会参加をサポートする 取り組み（自由記述）

➤参加の方法

- ・ 同伴者パス，中高生の入場（検討を含む）
- ・ 子供同伴の場合の参加費旅費の補助
- ・ オンライン参加でも託児補助

➤会場の整備

- ・ 子供と利用できる休憩室，ファミリー休憩室
- ・ 小学生向けのイベント

➤懇親会

- ・ 子供料金の設定，キッズスペース

➤情報提供（会場付近の託児施設，子供向け施設）

3－3）託児室以外に子ども連れの研究者の大会参加をサポートする取り組みがあればお書きください。（例：子どもと利用できる休憩室の設置、会場周辺の子どもの向け施設の提供 など）

webサイトにて、会場周辺の子どもの向け施設の提供をしている。

オンライン大会での託児費補助

育休中の学会員への参加費の補助

育児等の事情がある場合、学会に参加するためにかかる費用（学会現地のベビーシッター、自宅でのベビーシッター、親が自宅に来るための交通費など柔軟に認めている）を5万円を上限として援助。

会場周辺の託児所の提供、託児関連費用の一部補助

今までは6才までの受け入れでしたが、2024年度大会からは12才までの受け入れに変更しています。

今年11月の年次大会では大会長のご配慮により、家族同伴で参加される場合に、講演会場に入らないことを前提とした、同伴者パス（無料）を設けていただいています。

懇親会でのキッズスペースの併設

懇親会での子供料金明示、託児サービスの紹介（どちらも利用者負担だが、参加OKのメッセージとして）

子どもと参加できる懇親会、(合宿形式の際)家族で宿泊できる部屋調整、子どもと委員会・会議参加OKの雰囲気

子どもと利用できる休憩室の設置、会場周辺の医療機関の設置（大会LOC協力）

子どもと利用できる休憩室の設置、大会にオンライン参加している研究者が自宅近辺で託児サービス（シッター・一時保育・民間託児所等）を利用した際の託児料金の補助

子連れの大会参加者が予約なし・無料で利用できる「ファミリー休憩室」を設置している。

授乳やおむつ替えの可能なファミリー休憩室の設置（オンサイト）

小学生向けの子供生態学講座の設置（人員不足により開催出来ない年もあり）

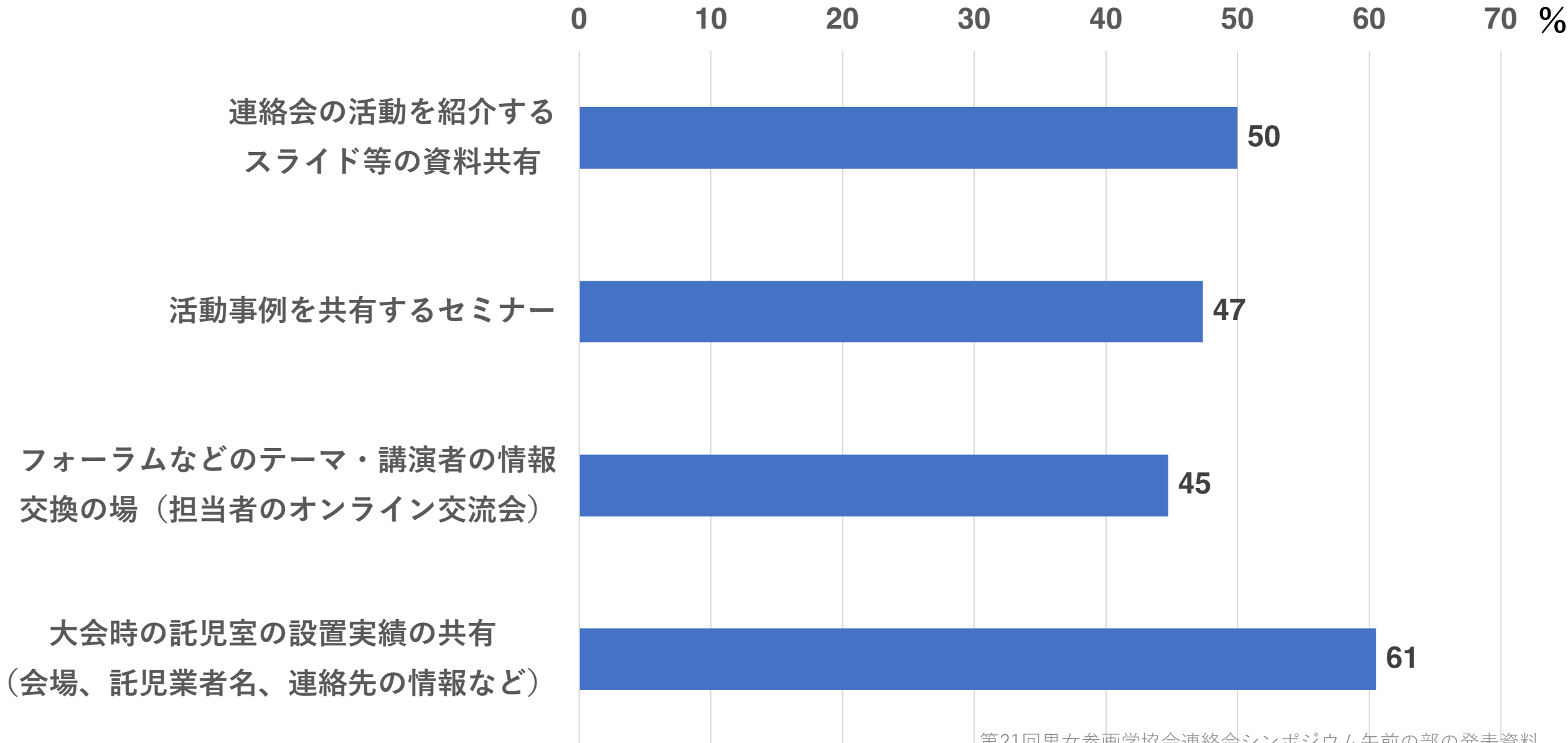
中高生の年次大会入場検討、懇親会への参加を促すための料金設定

通常利用している保育施設の延長料金の補助

登壇者がお子さん連れだったため、救護室を託児室としても使えるようにしたことがあります。保育者は身内の方がいらしてました。

行っていない

4-1) 今後、協力できたらよいと思うもの（複数回答可）



5) 感想や意見など（自由記述）

➤他団体とのコラボ企画

➤共有したいこと

- ・ 好事例
- ・ 他の団体の取り組み，特に女性会員を増やす取り組み
- ・ 中堅から若手の男性会員が男女共同参画の活動に積極的に取り組める雰囲気づくりのアイディア
- ・ 大会託児所の設置の効果（どのように活用されたか）

➤連絡会への期待

- ・ 女性会員が少ない学会における活動に対する理解
- ・ ジェンダー平等のために先進的な取り組みを期待する

5) 感想や意見などありましたら、お書きください。

このようなアンケートを実施いただき、ありがとうございます。大きなプラットフォームなので、知識や経験や相互に活かせるような活動ができればと思いました。

また、世代間の意識も変わってきていることも実感しており、特に、中堅から若手の男性学会員が、男女共同参画の活動に積極的に取り組める雰囲気作りのアイデアを伺いたいです。

わたくしどもの学会では、男女共同参画・ダイバーシティ推進へ向けた取り組みを始めてからの年数がまだ浅く、手探りで進めている状況です。加盟学協会がどのような取り組みを実施してきたのかを知る機会となり、結果の共有を楽しみにしております。

委員会が設置され、活動内容を模索していたところですので、好事例を共有できる機会は大変ありがたいです。

引き続きよろしくお願いいたします。

皆様の活動を勉強させて頂いております。

学会のトップ（理事会）に理解者を増やすことが重要だと思います。いまだにダイバーシティ推進の意義が理解されていない部分もありますので、ダイバーシティ推進を進めないことが、その分野にとって不利益になるのだ、ということが明確に伝わるように、学協会が連携して、様々なところへ働きかけをしていく必要があると感じています。

今回のアンケートで学会間でノウハウが共有できるれば良いと思います。本学会の学生の女性比率は高いのですが、その後、一般会員になると比率が下がる傾向にあり、やはり女性に多くの壁があることが明らかになっています。

女性会員が少ない学会における男女共同参画活動にもご理解をいただきたい。

情報共有はとても大事ですので、本アンケートは有益を思われます。

他の学協会の取組を知るため、いろいろな学協会とのコラボ企画もあってよいと思います。

対象の会員を増やす活動の実例等があれば、それを参考にしてみたい。

大会託児所の設置は行われているが、どのように活用されたか、といった情報がないので実績の共有が必要だと考える。

男女共同参画学協会連絡会には、引き続き、日本のジェンダー平等のために先進的な取組を期待しています。